

やまびこ

BULLETIN OF YAMAGATA UNIVERSITY LIBRARY

No.53 2004. 10

【蔵王のお釜（火口湖）】

もくじ

真理が我らを自由にする・・・・・・・・・・	農学部分館長 貫名学・・・	1
山形大学における電子ジャーナルの利用	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
ひろば（図書館からのお知らせ）	・・・・・・・・・・・・・・・・	4
寄贈された教官著作物	・・・・・・・・・・・・・・・・	5
附属図書館委員会委員名簿	・・・・・・・・・・・・・・・・	6
附属図書館運営委員会審議事項（第1回～第3回）	・・・・・・・・・・・・・・・・	6
新人紹介	・・・・・・・・・・・・・・・・	7
附属図書館後期ガイダンス案内	・・・・・・・・・・・・・・・・	8

真理が我らを自由にする

農学部分館長 貫名学

国立国会図書館内の確か総合案内か何かの受け取り場所のある所の壁面の上の方に、この「真理が我らを自由にする」との文字が書いてある。わずか11文字であるが、その意味するところは、大学図書館にこそふさわしいものであろう。この11文字の中の4文字、すなわち「真理」と「自由」こそが、大学が大学たるべき所以として社会的に存在する理由の最も重要な命題であろう。この11文字は、私が初めて国立国会図書館を訪れた時に目に留まった。やはり権威ある場所は少し違うと思った。誰が言ったのか、その時には気にはなかったが、調べずにいた。このたび、この「やまびこ」に何かを書いて欲しいとの依頼を受け、いい機会なのでネットで調べ、その由来がやっとわかった。

そもそもこの言葉は、国立国会図書館が設立される時に公布された国立国会図書館法の前文にのっており、「真理が我らを自由にするという確信に立って、憲法の誓約する日本の民主化と世界平和に寄与することを使命として」設立されたとある。そしてその由来は、羽仁五郎がドイツ留学中にフライブルグ大学図書館の銘文として記憶していたことに由来すると書かれている。つまりその由来は、大学図書館の銘文なのである。さらにそ

の基はというと、聖書にあり、その原文の意味として、真理はあなたたちを自由にする、とあると説明されている。

大学は、真理探究の場であり、そのための研究の自由が保障されなければ、社会的な意味がない、と私は思う。自由な発想に基づく、「知りたい」という基本的要求に則った活動をこそ大事にしたい。この言葉は、最近の大学をめぐるさまざまな流れの中における論議や文章中には、残念ながらあまりでてこないように思われる。そのことが、もっとも気にかかっている。

経費節約は、無駄なことをしないためにも必要であるが、研究は、まだわからないことを知る作業であり、その結果がわかってしまえば、途中の実験は、ほとんど無駄な実験である場合の方が多いであろう。しかし真理を知るためには、そのことは不可欠な経費なのである。もっとも費用対効果という言葉があり、どのような方法で知るか、同じ真理を知るにも経費の効果的な使い方はあるだろう。

私の研究分野は、有機化学であり、大きくは分子生物学の中に入るといっていい。生物が作る特異な分子や生体に含まれる分子を取り出して、そ

の構造を知る作業が主である。この場合、分子をその他の分子から分離すること、分離した分子の構造を知る方法が問題となる。特に構造を知る方法では、質量分析装置 (MS) や核磁気共鳴装置 (NMR) など経費のかかる大型機器の出番であり、その機器の性能によって難易度がまるで違う時代となっている。大学にない場合は依頼分析をするが、その経費も高額である。自由に分析するには、自前のもを用意するしかない。このような高額機器の整備をどうするか? 私は、このような高額の機器は大型機器センターで集中して運用するようなくみが必要であると思っている。

また、電子ジャーナル経費のような場合、知る権利を保障するためにも高額ではあっても大学として利用環境を守る必要があると思う。電子ジャーナルは図書館で利用可能であることから、地域の

人々にも利用可能であり、ことは大学だけのポテンシャルにかかわる問題ではなく、地域のポテンシャルにもかかわっていると思われる。高額機器も同様である。しかし、これらの必要経費は大学だけで負担し続けることが今後は益々難しくなっていくと思われるので、地域のポテンシャルを維持するためにも、その必要経費を地域でも分担してもらえるようなくみが必要ではないかと思われる。

真理は、時としてそれを明らかにするためには高額であるが、それによって自由が得られるのであれば、高い買い物ではない。真理が明らかになれば、それ以外の理由なき妄想や無駄な努力を払わなくて済み、またいかなる権力者といえども真理には勝てないのだから。

山形大学における電子ジャーナルの利用

1990年代後半から急速に普及してきた電子ジャーナルは、現在世界で 39,900 タイトルが刊行されており、そのうち 15,700 タイトルが学術雑誌であるといわれている (図 1)。

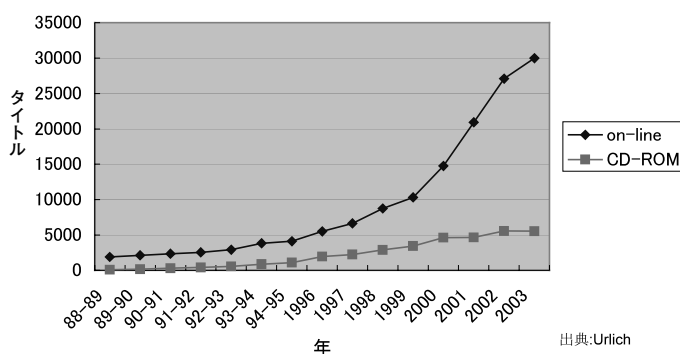


図 1 電子ジャーナルの刊行タイトル数の推移

山形大学では、2002 年度から文部科学省の電子ジャーナル導入経費及び学内共通経費の配分を受け、大手商業学術出版社を中心とした電子ジャーナルの整備に着手し、2004 年度には 4,300 タイトル以上の電子ジャーナルが利用できる (図 2 及び表 1)。山形大学で現在利用できる電子ジャーナルのタイトル数は、同規模の国立大学の中でもトップクラスである。

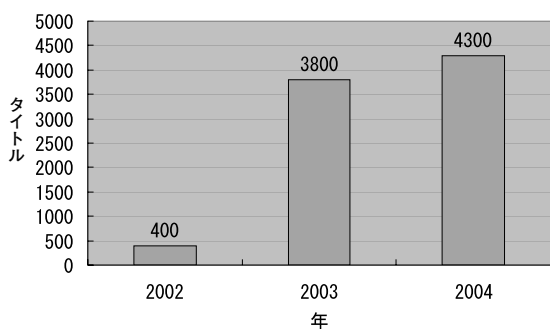


図 2 山形大学で利用できる電子ジャーナルのタイトル数の推移

表 1 2004 年度に利用できる山形大学の主要な電子ジャーナルサービス

出版社	名称	タイトル数	分野
Elsevier	ScienceDirect	2,006	全分野
Blackwell	Synergy	706	全分野
Springer	SpringerLINK	426	全分野
Kluwer	Kluwer Online	750	全分野
Oxford University Press	Oxford Journal	184	全分野
IEEE/CS	CSLSP-e	23	コンピュータ科学
ACM	ACM Portal	88	コンピュータ科学
Nature Publishing	Nature Online	4	自然科学・医学
AAAS	Science Online	1	自然科学
Cell Press	Cell Press Online	3	生物医学

年間ダウンロード件数：88,559件

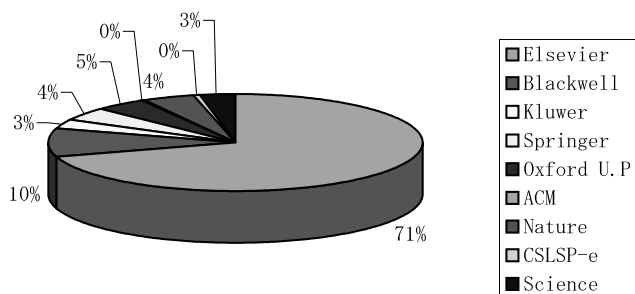


図3 2003年度の出版社別電子ジャーナル年間ダウンロード件数

このように整備されてきた電子ジャーナルはどのように利用されているのであろうか。2003（平成15）年度の出版社別の電子ジャーナルダウンロード数（印刷体雑誌の論文の閲覧あるいは複写件数にほぼ等しい）は、約9万件である（図3）。

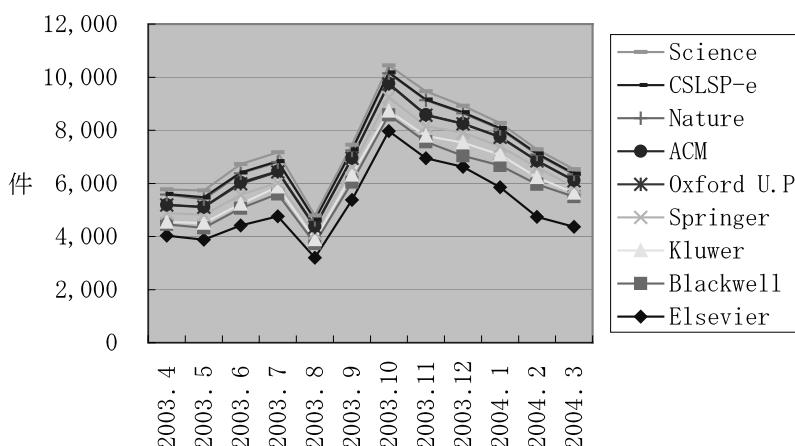


図4 2003年度月別電子ジャーナルダウンロード件数の推移（積み上げグラフ）

次に2003年度の電子ジャーナル利用件数の推移を見ると最も利用の少ない夏季休業期間である8月でも約5千件、最も利用の多い10月には10,000件以上の利用がある。（図4）

また、最も利用の多いElsevierの電子ジャーナルでは、印刷体雑誌を購読していないタイトル（非購読誌）の利用件数が印刷体雑誌を購読しているタイトル（購読誌）の3倍の利用となっている。（図5）。

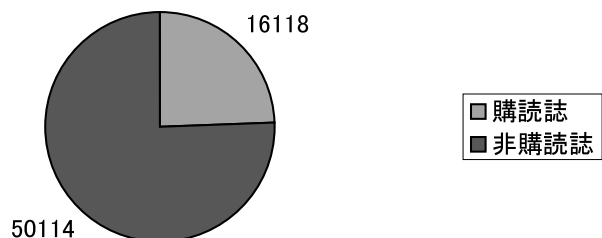


図5 Elsevierの電子ジャーナルの購読誌と非購読誌の利用件数（2003年3月～2004年3月）

更に、平成15年度のElsevier電子ジャーナルのキャンパス別利用割合を見ると飯田キャンパスと米沢キャンパスが各37%、小白川キャンパスと鶴岡キャンパスが各13%となっている（図6）。

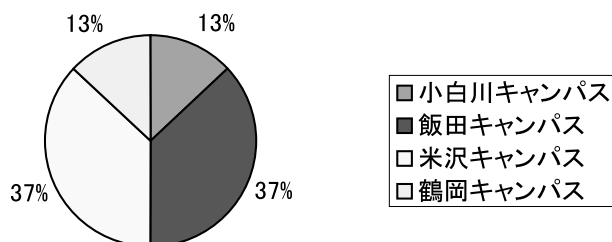


図6 2003年度Elsevierの電子ジャーナルのキャンパス別利用割合

以上のように、山形大学における電子ジャーナルの利用は、件数、期間、印刷体の購読の有無、キャンパス別利用の側面から見て非常によく利用されている。山形大学における電子ジャーナルの利用が定着したことがわかる。

電子ジャーナルは高額であり、その利用には多大な経費が必要である。附属図書館としては「研究のライフライン」としての電子ジャーナルの整備と附属図書館のホームページ等を通じたより使いやすい利用環境の提供を心がけていきたいと考えているので、学内の関係者のご理解とご支援を引き続きお願いいたします。



より新しいニュースは、ホームページを！

<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/>

中央図書館 ☎ 023 (628) 4913

貴重資料常設展示コーナー開設

1 階閲覧室入口に、貴重資料常設展示コーナーを開設しました。国指定の重要文化財・中条家文書のレプリカ 5 点をはじめ、高橋文庫・佐久間文庫など中央図書館所蔵のコレクションを展示しております。ぜひご覧ください。

旧書庫 5 層の間仕切り

旧書庫 5 層に保管してある古文書など貴重資料の紛失や散逸を防ぐために、このたび階段部分を金網で仕切り、入室を制限いたしました。利用される場合は、ご面倒でもカウンターで鍵をお借りください。

オープンキャンパスで開館

8 月 7 日（土）、小白川キャンパスで実施されたオープンキャンパスで、図書館・博物館を開館し、館内ツアーを行いました。400 人以上の入館者があり大変盛況でした。

医学部分館 ☎ 023 (628) 5054

祝日開館しました

要望の高かった祝日の開館を 4 月から実施することになりました。開館時間は、土・日曜日同様 10 時～17 時です。平日の開館は 15 分延長になり 21 時 15 分までとなりました。また、夏季休業後の通常開館開始日を 9 月中旬から 9 月 1 日に繰り上げました。

医学部分館南側職員出入口前が喫煙コーナーになりました

受動喫煙防止に伴い、今年の 4 月から正式に図書館の南側が喫煙コーナーに指定されました。喫煙される方は、火の後始末をよろしく願います。

Web of Science 講習会

6 月 30 日開催の講習会には 25 名の教職員・大学院学生の出席があり、質疑応答もあり盛況のう

ちに終了しました。会場：視聴覚室、講師：ISI トムソンコーポレーション高島有治氏、開催時間：18 時 15 分～19 時 45 分

医学部オープンキャンパスが開催されました

今年も 8 月 6 日にオープンキャンパスが開かれました。今年は参加者が増えたため、事前に電子媒体で提出した医学部分館の概要説明文及び写真を基に入試担当者から説明後、2 コース 10 班に分かれて見学が行われ、約 200 名の高校生が図書館を訪れました。

医学部研究業績集 2003 版を発行し学内に配付しました

例年医学部分館で担当している研究業績集を 8 月に 130 部発行し、医学部各講座を始め、学長、部局長、図書館等に配付しました。今年は昨年を引き続き CD-ROM でも発行しました。今年から経費節約のため、校正担当者の雇い上げは止めて、著者校正を原則とし、見積合わせを実施した結果、非常に安い経費で発行することができました。

Windows パソコンを設置しました

医学部情報システム部会への申請が認められ、コンピュータコーナーの MacOS 搭載パソコンの代わりに、Windows パソコン 1 台を設置しました。医学中央雑誌 CD-ROM 版、Web 版、オンラインジャーナル等の利用ができます。

第 75 回 NPO 日本医学図書館協会総会開催

去る 5 月 27・28 日の両日に帝京大学医学図書館を開催地区代表機関として、学術総合センター橋記念講堂で開催され、併せて NPO 法人設立記念式典が開催されました。「変革の時代に求められる医学図書館」のメインテーマの下、文部科学省医学教育課長ほかのパネルプレゼンテーションを基にした総合討論、記念講演のほか今年初めて設けられた 6 つの分科会が開かれました。当館からは分館長、図書係長が出席しました。

第 45 回東北地区医学図書館協議会総会開催

去る 10 月 22 日福島県立医科大学附属図書館を当番校として開催され、各大学から提出された協議題、照合事項、近況報告について、協議・報告・質疑応答を行いました。当館からは分館長、図書係長が出席しました。なお、次回は当館が当番校として開催されることが決定しました。

工学部分館 ☎ 0238 (26) 3019

工学部分館を学外者へ開放しました

4 月 1 日より学外者の方も工学部図書館を利用していただけるようになりました。また、図書を 3 冊 3 週間まで館外への貸し出しもするようになりました。これに伴って、学外者の利用登録件数は、9 月までの半年間ですでに昨年度 1 年間の利用者数を上回っています。

開館時間の延長について

10月から、これまで土曜日は13時から17時までの半日開館となっていましたが、学内の強い要望があったことと学外者へ図書館を開放したことも考慮し、土曜開館時間を9時から17時までに延長しました。

返却BOXを設置しました。

10月から、玄関前に返却BOXを設置しました。図書館閉館の際の資料返却や、Bコースの学生の方の夜間時の返却にご利用してください。

中学生の勤労体験学習が行われました。

9月14日から15日の2日間、米沢一中と二中の中学生16名を迎え図書館内において、勤労体験学習が行われました。中学生たちは、熱心に計画表にしたがって各学習を体験しました。途中、研究室での体験、勤労体験中学生への特別講演会、また職業適性検査等も経験しました。

横山晶一工学部分館長が「山形県図書館研究大会」へ参加しました。

10月22日から23日行われた「山形県図書館研究大会」へパネラーとして初めて分館長が参加し「大学図書館の地域における貢献」についてお話されました。県内市町村図書館、学校図書館の関係者約200名ほどの参加者があり、大学図書館の現状を知り、いつでも利用出来る図書館として大変関心をよびました。

農学部分館 ☎ 0235 (28) 2810

中学生体験学習ご苦労さまでした

昨年に引き続き、近くの第二中学校から女子生徒3人に3日間働いていただきました。昨年は男子3人から力仕事を中心をお願いしましたが、今年も男女の分け隔てなくひととおりの仕事を与え、十分すぎるほどこなしていただき感謝しております。特に昨年度は基本カードを大量に引き抜いたため、その整理は人一倍根気のいる作業のはずでしたが大半をやっていただきました。誠にありがとうございました。

本学教員著作寄贈図書

—2003.1～2004.9—

このたび本学の先生方から、以下の著書を寄贈していただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

【中央図書館】

大津 高 (名誉教授)

「山形県陸産淡水産動物目録」改訂版 山形県動物環境調査会、2004 (481.77// ヤマガ)

森 芳三

「郷愁」森芳三、2004 (914.6// キヨウ)

山形 理 (名誉教授)

「最上川：句集」雪舟発行所、2004 (911.56// モガミ)

岩田浩太郎 (人文学部)

「近世都市騒擾の研究：民衆運動史における構造と主体」吉川弘文館、2004 (210.5// キンセ)

富澤敏勝 (人文学部)

「国際取引とリスク・マネジメント」悠々社、1994 (329.85// コクサ)

新宮 学 (人文学部)

「北京遷都の研究：近世中国の首都移転」汲古書院、2004 (222.058// ペキン)

松尾剛次 (人文学部)

「日本の寺院：歴史のなかの宗教」新人物往来社、2003 (185.91// ニホン)

浅井 武 (教育学部)

「サッカーファンタジスタの科学」光文社、2002 (783.47// サツカ)

高橋芳子 (教育学部)

「魂をゆさぶる表現」山形大学教育学部保健体育科高橋芳子研究室、2003 (375.49// タマシ // 6)

小田隆治 (教育学部)

「日本の大学をめざす人の生物学」東海大学出版会、2003 (460// ニホン)

高 吉嬉 (教育学部)

「在朝日本人二世」のアイデンティティ形成：旗田巍と朝鮮・日本」桐書房、2001 (289.1// ザイチ)

高橋幸一 (教育学部)

「スポーツ学のルーツ：古代ギリシア・ローマのスポーツ思想」明和出版、2003 (780.2// スポツ)

小川雅子 (教育学部)

「国語表現力の構造と育成：内的言語活動を主体とする理論と実践」溪水社、2003 (375.8// コクゴ)

小川雅子 (教育学部)

「生きる力」を発揮させる国語教育：内言を主体とした理論と実践」牧野出版、2001 (375.8// イキル)

小川雅子 (教育学部)

「国語教育の根幹：内在価値を感じさせる」改訂第2版 溪水社、1997 (375.8// コクゴ)

葛西大和 (農学部)

「地方史研究の可能性：神立春樹研究室の研究活動」西日本法規出版、2004 (602.1// チホウ)

【工学部分館】

城戸淳二 (工学部)

「有機ELのすべて：エレクトロ・ルミネッセンス」日本実業出版社、2003 (549// ヨウキ)

多賀谷英幸 (工学部)

「有機資源化学」朝倉書店、2002 (430// オウヨ // 2)

附属図書館運営委員会名簿

(平成16年10月1日現在) (○は委員長)

所 属	氏 名	任 期
○附属図書館長	早川正信	16. 4. 1～17. 3. 31
医学部分館長	加藤宏司	15.10. 1～17. 9. 30
工学部分館長	横山 晶一	15. 1. 1～16.12. 31
農学部分館長	貴名 学	15. 4. 1～17. 3. 31
人文学部教授	藤田 稔	16. 4. 1～17. 3. 31
〃	芦立 一郎	16. 4. 1～18. 3. 31
教育学部教授	小川 雅子	16. 4. 1～18. 3. 31
〃 助教授	今村 哲史	16. 4. 1～18. 3. 31
理学部教授	坂本 政臣	15. 4. 1～17. 3. 31
〃	小関 道夫	16. 4. 1～18. 3. 31
医学部教授	小谷 直樹	16. 4. 1～18. 3. 31
工学部助教授	仁科 辰夫	15. 4. 1～17. 3. 31
農学部助教授	安中 武幸	16. 4. 1～18. 3. 31
学術情報基盤センター教授	澤田 秀樹	16. 4. 1～18. 3. 31
留学生センター助教授	尤 銘煌	16. 4. 1～18. 3. 31
学務部長	日野 静雄	(職 位 指 定)
図書館事務部長	清水 二郎	(職 位 指 定)

古典資料委員会名簿

(平成16年10月1日現在) (○は委員長)

所 属	氏 名	任 期
○附属図書館長	早川正信	16. 6. 11～17. 3. 31
人文学部教授	松尾 剛次	16. 6. 11～18. 6. 10
〃	岩田 浩太郎	16. 6. 11～18. 6. 10
教育学部教授	伊藤 清郎	16. 6. 11～18. 6. 10
教育学部助教授	長尾 直茂	16. 6. 11～18. 6. 10
図書館事務部長	清水 二郎	(職 位 指 定)

平成16年度附属図書館運営委員会審議事項

第1回 (平成16年6月1日開催)

- 1 委員の代理出席について

- 2 附属図書館古典資料委員会の設置について

- 3 附属図書館蔵書構築基本要綱等について

第2回 (平成16年6月11日文書配布会議開催)

- 1 附属図書館古典資料委員会要項について

第3回 (平成16年7月26日開催)

- 1 附属図書館蔵書構築基本要綱等について

- 2 平成16年度附属図書館予算配分要項(案)並びに中央図書館、3分館への予算配分(案)について

- 3 平成16年度事業計画について

- 4 電子ジャーナルの整備について

- 5 電子資料整備検討委員会について

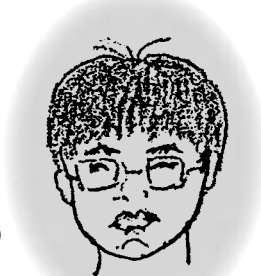
- 6 平成17年度以降の年度計画について

はじめまして！



佐藤亜紀 (目録情報係)

昨年 10 月に新規採用で山形大学附属図書館目録情報係に配属になりました。早いものでもう一年が経ち、今現在は閲覧係と兼務しています。午前は事務室内で、午後はカウンターや開架閲覧室で仕事をしています。一年が過ぎてみて思ったのは、自分がまだまだ未熟であることと、利用者の立場で考えることが大切だということなどです。この二点を頭に入れて仕事をしないと、失敗を招くことがわかりました。余談になりますが、山大卒で在学中も夜間開館のアルバイトをしていたので、割と学生さんと近い立場にいるのでは、と思います。図書館のことでもそれ以外でも気づいたことがあれば気軽に声をかけてください。



山田俊幸 (学術情報係)

4 月に採用になりました学術情報係の山田と申します。以前は I L L の依頼業務を、現在は電子図書館のシステム開発を主に行っています。右も左もわからない状況で仕事につき、前任者なども不在のため自力で一つ一つ学びながら、過去の事例も参考にできない中で海外から図書を借りたり、日に百以上の依頼をこなさなければならなかったり、採用当初から苦労の連続でしたが、やり終えた今では自信を感じています。現在は依頼業務の引継ぎも終わり、今後公開される予定の電子図書館サービスに関わる業務に全力で取り組んでいるところです。よりよいサービスの提供を目指して頑張っております。どうぞよろしくお願いたします。



佐々木寛子 (医学部分館図書係)

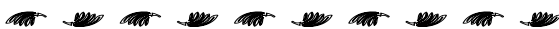
学生時代、国文学をマイペースに勉強していた私にとって、医学部で最もカルチャーショックだったのは、情報の速さに対する要求の高さです。図書、雑誌、文献、各種電子ツールなど、あらゆる情報を、可能なかぎり迅速に提供しなければなりません。命に係わる研究は時間との闘いだということ、先輩職員に教わりました。図書館員として業務の習得を目指し、少しでも早く尊い研究のお役にたてるよう、努力していきたいと思っております。



高橋寛哲 (農学部分館図書係)

4 月 1 日より農学部分館に配属されました高橋寛哲です。鶴岡については何も知りませんが、歴史や文化が豊かで、食べ物もおいしい、人はおだやかというふところの広い土地柄であり二週間程で気に入ってしまいました。

仕事の方ではわからない事ばかりで周りの方々にはお世話になる一方ですが、いつの日かは、少しでも地域社会に貢献できるようになりたい。これから色々とお迷惑をおかけすることと思いますが、どうぞよろしくお願いたします。



中央図書館ガイダンスのお知らせ (平成16年度・後期)

平成16年度・後期 1年生のための図書館案内：図書館をもっと活用しよう！

- 開催日時 : 平成16年10月7日(木) 16時20分～16時50分(約30分間)
: 平成16年10月8日(金) 16時20分～16時50分(約30分間)
説明内容 : 蔵書検索(OPAC利用法)について簡単に説明の後、館内めぐりの小旅行を行います。普段入室禁止の場所もご案内します。

学生・大学院生のための図書館ガイダンス：日本語文献を探してみよう！
(雑誌記事索引利用説明会)

- 開催日時 : 平成16年10月22日(金) 16時25分～17時15分(約50分間)
説明内容 : 日本語論文検索用データベース[雑誌記事索引]の利用法の説明です。

学生・大学院生のための図書館ガイダンス：電子図書館をもっと使おう！
(中央図書館ポータルページ利用説明会)

- 開催日時 : 平成16年12月10日(金) 16時25分～17時15分(約50分間)
説明内容 : 中央図書館ポータルページからの各種リンク情報についての説明です。

参加希望者は、申込書またはメールで担当係まで申しして下さい。

この他にも、図書館では必要に応じ、随時、外部から講師を招くなどして、各種データベースや電子ジャーナルの利用説明会を開催しています。また、各先生方からのご要望により、授業の一環としての図書館ガイダンスを、ご希望に応じた内容で実施しています。授業時における図書館ガイダンスを希望される場合は、お早めに担当係へご相談ください。

担当：所属図書館情報サービス課学術情報係

(Tel 023-628-4914) E-mail : jsagaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

原稿を募集中です

図書館利用上の建設的なご意見や、要望などをお寄せください。

023(628)4903 E-mail jkahosa@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

..... 山形大学附属図書館 2004年10月発行(年2回刊)

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12 <http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/>

《この印刷物は再生紙を使用しています》